

主催 愛知県

後援 愛知市長会
愛知県町村会
愛知県商工会議所連合会
中部経済同友会
愛知県都市計画協会
中部デザイン協会

協賛 (公社)愛知建築士会
(公社)愛知県建築士事務所協会
(公社)日本建築家協会東海支部愛知地域会
(一社)愛知県建設業協会
(一財)愛知県建築住宅センター
(一財)東海建築文化センター
愛知県建築技術研究会

ART DIRECTION + DESIGN / CAMP inc.



第25回

愛知まちなみ 建築賞

表彰作品集 2017



愛知まちなみ建築賞について



愛知県知事
大村秀章
Hideaki Omura

近年、社会情勢の変化に伴い、魅力的で個性的な美しいまちなみや景観の形成が求められるようになり、景観まちづくりに関する取り組みが全国で展開されております。

愛知県においても、魅力的な地域づくりには良好な景観形成が必要と考え、平成5年度に「愛知まちなみ建築賞」を創設しました。本賞は、地域における新しい建築文化の創造に寄与しているものや、地域のまちなみに調和し魅力的な景観の形成に寄与しているものなど、社会的貢献度の高い建築物やまちなみを表彰するもので、魅力ある地域環境の形成を図ることを目的としております。

今回は69作品の応募をいただきました。これらの作品の中から、選考委員会で厳正かつ公平な審査を行なっただき、最終的に7作品が受賞する運びとなりました。

今回の受賞作品は、地域の顔として親しまれるような空間を目指したもの、日常的に地域と子どもたちそれぞれの活動が垣間見え、賑わいが伝わりあう計画

としたもの、まちとともに生きる生活保護施設をめざしたもの、名城公園の利用度向上及び大津通の活性化を提案したもの、異なる設計者により作られる建築群を、個々の魅力を高めつつ集合体としてまとめたもの、互い違いに配置された庭が小さな公園のような空地環境を提供しているもの、まちなみと大学の双方が、相補的に豊かな環境を創り出すキャンパスを構築したものなど、いずれも魅力ある個性を持ち、社会貢献度の高い作品ばかりでした。これらの受賞作品がこれからも多くの人々の共感を呼び、また地域の魅力ある景観の形成に寄与していくものと思います。

最後になりますが、広くご関心を寄せていただいた県民の皆様をはじめ、熱心に審査していただいた選考委員の皆様、温かいご支援をいただきました後援・協賛団体の方々へ、深く感謝申し上げます。今後とも県民の皆様と連携して魅力と潤いのある地域づくりに取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご支援をお願い申し上げます。

受賞作品 (50音順)

- 01 ATグループ本社北館・南館 [名古屋市昭和区高辻町]
- 02 新城市立作手小学校・つくで交流館・作手総合支所 [新城市作手高里]
- 03 多機能型生活保護施設 愛恵園・愛恵園授産所 [岡崎市舞木町]
- 04 tonarino [名古屋市北区名城一丁目]
- 05 名古屋大学NICを中心とした
コレクティブ・フォーム(集合体)の形成 [名古屋市千種区不老町]
- 06 まちに架かる6枚屋根の家 [名古屋市名東区大針三丁目]
- 07 名城大学ナゴヤドーム前キャンパス [名古屋市東区矢田南四丁目]



練り込み技法による記念銘板

作/陶芸家 水野教雄

選考基準

良好なまちづくりを進めていくためには、建築物及びまちなみが地域環境の形成に積極的に関わり、一定の社会的役割を果たしていくことが重要であるという認識の下、募集条件に適合しているもののうち、良好なまちなみ景観の形成や潤いのあるまちづくりに寄与する等、良好な地域環境の形成に貢献していると認められる建築物又はまちなみで、次の基準のいずれかに適合し、かつ社会的貢献度の高いものを選考する。

- 1 地域における新しい建築文化の創造に寄与しているもの。(以下例示)
 - 新しいまちなみの形成を先導し、モデルとなるもの。
 - デザインに優れ、地域環境の形成又は新しい地域環境の創造に寄与しているもの。
 - 周囲への配慮がなされ、地域の魅力を高めているもの。
- 2 地域のまちなみに調和し、魅力的な景観の形成に寄与しているもの。(以下例示)
 - 地域の風土を生かし、地域文化の継承に寄与しているもの。
 - まちなみに調和し、地域の特色ある景観を創造しているもの。
 - 建築協定等の住民の主体的な活動や総合的な計画等により、まちなみ景観が形成されているもの。
- 3 魅力と潤いのある空間の創造に寄与しているもの。(以下例示)
 - 緑化、せせらぎ等の、地域に魅力と潤いを与える空間を創出しているもの。
 - 通り抜け空間や開放ギャラリー等の、地域コミュニティの形成に寄与しているもの。
 - 地区計画等の詳細な整備計画や住民活動等により、良好な地域整備が図られているもの。
- 4 その他、本賞の趣旨に適合し、地域に貢献しているもの。

選考経過

推薦・応募対象	愛知県内で、平成24年4月1日から平成29年8月20日までに建築又は改修等された建築物やまちなみで、選考基準のいずれかに該当するもの。
推薦・応募期間	平成29年7月1日から平成29年8月20日まで
推薦・応募総数	73通(69作品)
第1回選考委員会	平成29年9月8日 一次選考を行い、20作品を二次選考対象とした
第2回選考委員会	平成29年10月24日 二次選考を行い、7作品を選定
表彰式	平成30年1月29日

選考委員

(順不同/敬称略)
★印は選考委員長

★ 武藤 隆	大同大学 教授
生田京子	名城大学 准教授
北川啓介	名古屋工業大学大学院 准教授
太幡英亮	名古屋大学大学院 准教授
村山顕人	東京大学大学院 准教授
森 真弓	愛知県立芸術大学 准教授
廣瀬高保	公益社団法人愛知建築士会 会長
朝岡市郎	公益社団法人愛知県建築士事務所協会 会長
久保田英之	公益社団法人日本建築家協会東海支部愛知地域会 地域会長
海田 肇	愛知県建設部 建築局長

Aichi
Machinami
Kenchiku Show

まちなみ建築賞総評

愛知まちなみ建築賞は今年で25回目を数える。あらためて初回からの受賞作品と総評とを振り返ると、いかに「まちなみ」と「建築」との関係についての議論が積み重ねられてきたかがわかる。比較的単体の建築の創造性が評価されていた初期の頃から、パブリックな空間といかに関わるかという点が評価されている近年に至るまで、時代や社会の価値観の推移とともにその評価軸も同様に推移しているのも興味深い。この地域での、四半世紀にわたる継続的なその議論の蓄積は、「まちなみ」と「建築」の概念や関係性が、今後どのように変化していくかということも含めて、後世に残すべき貴重な記録として、愛知まちなみ建築賞のさらなる継続を望みたい。

今年は、県内各地から69作品の応募があった。愛知県の「人にやさしい街づくりの推進に関する条例」に適合しないもの2点を除外して、67作品を審査の対象とした。地域ごとでは、名古屋市が29点、尾張地域20点、西三河地域13点、東三河地域5点となっている。1次選考では、この中から20点を2次選考対象作品とした。10月24日に行われた2次選考では、作品ごとの詳細資料・図面ならびに現地撮影した映像資料を用いて選考委員による討議を行い、7作品を選定した。

受賞した個々の作品については各委員の講評をお読みいただきたいが、今回の審査で特筆すべき点としては、住宅を除いた受賞作品の多くが、一つの応募作品にもかかわらず道路をまた

いだ2敷地に計画されたものであったことだ。「tonarino」や2つの大学施設のように、公園や大学キャンパスなどの広い敷地内の通路などとの関係性も含めると、ほぼすべての受賞作品がそうであるといっても過言ではない。「新城市立作手小学校・つくで交流館・作手総合支所」や「多機能型生活保護施設愛恵園・愛恵園授産所」のようにほぼ同時期に計画・建設されたものと、「ATグループ本社北館・南館」や「名古屋大学NICを中心としたコレクティブ・フォーム(集合体)の形成」のように、計画・建設時期に時間軸のズレがあるものがあり、特に後者の視点はこの「まちなみ建築賞」にふさわしい試みや提案であると同時に、今後の評価軸に対しても大きな示唆を与えてくれている。そこには設計者の能力だけでなく、敷地やプログラムを用意する発注者側の時代や社会に対する眼力も必要になってくるが、「まちなみ建築賞」は、単に道路に面した敷地における建築単体のあり方に対する評価だけではなく、道路と敷地と建築の関係性やそのあり方によって産み出されるパブリックな空間そのものに対する提案をしているかどうかとも重要な評価軸になってきていると実感した。近年、東海地区において様々な建築賞が創設されてきたことにより、それぞれの賞のもつ特徴が明確化されることで、「まちなみ」という視点から建築を評価する愛知まちなみ建築賞のあり方や役割も明確化されてきていることの証左であろう。



大同大学教授
武藤 隆
| Takashi Muto



01

ATグループ本社 北館・南館

えいていぐーぷほんしゃ
きたかん・みなみかん

名古屋市昭和区高辻町

名古屋の中心部で有数の交通量の多い交差点“高辻”にこの作品はある。老舗の自動車販売のグループ会社が創立80周年記念事業として道路により分断されている4敷地を総合的な整備計画による本社とショールームなどが建替えにより素晴らしい街並みを創造している。

幹線道路に沿って140m連続しているグループ運営の3社による統一されたショールームは、ガラス貼りで木材の内装であり、それ自体が魅力的な街並みであると共に、交差点に面してなだらかな屋根の曲線と木製の梁は大輪がのびやかに咲くように無機質な街並みに際立って目立っている。また、高い天井の開放的空間は、内外観共に、前面の高架道路が邪魔にならない高さで、街並みには景観の形成に貢献し、建物内部からは街路樹が背景となることで、相乗効果をかもしだしている。

総合的な建替計画によるこれらの作品は“まちなみ”の形成に貢献すると共に、魅力ある地区の創造とさらなる活性化に貢献している素晴らしい作品である。

朝岡 市郎 | Ichiro Asaoka

建築主	株式会社ATグループ
設計者	株式会社 竹中工務店
施工者	株式会社 竹中工務店
概要	主要用途 自動車ショールーム、事務所
	構造 鉄骨造、一部木造
	階数 地上4階(北館)、地上9階(南館)
	敷地面積 2,150.84㎡(北館)、3,113.96㎡(南館)
	建築面積 1,940.70㎡(北館)、2,497.57㎡(南館)
	延床面積 4,321.31㎡(北館)、13,261.06㎡(南館)



1,3 photo/車田写真事務所(2016) 2, photo/車田写真事務所(2014)



1

山村で小学校の統廃合が進んでいる。本計画は4校統合という厳しい経緯の中で、新しい地域コミュニティ(旧作手村)の中心を作ろうとした計画である。木造平屋建ての「新城市立作手小学校」が、何の垣根もなく「つくで交流館」と中庭で向かい合うのが素晴らしい。中庭を囲んで小学校のランチルーム・音楽室・図工室・メディアセンター、交流館のホールホワイエが配置され、共有利用される。地域と子どもたちの活動が、日常的に垣間見られ、連携や理解が深まる構成となっている。ともすれば都市部などではセキュリティを心配してここまでおおらかに小学校を開いていくことが難しい。本計画では、設計段階から地域と教職員・児童・利用者・行政でワークショップの議論が継続されたようで、相互に寄り添った案に完成していることが評価されよう。作手総合支所と小学校・交流館共に、地域材を用いた平屋で統一されており一体感もある。行政サービス・防災拠点・文化拠点が小学校と共にあり、一体の活動が展開されることで、山間地域に賑わいと安心感を与えている。

生田 京子 | Kyoko Ikuta



2

3

1,2,3 photo/谷川ヒロシ[トロロスタジオ](2017)

新城市立作手小学校・つくで交流館・作手総合支所

しんしろしりつくでしょうがっこう・つくでこうりゅうかん・つくでそうごうししょ

新城市作手高里

建築主	新城市
設計者	株式会社 東畑建築事務所 名古屋事務所
施工者	波多野・三河特定建設工事共同企業体 (作手小学校・つくで交流館) 株式会社 簡井工務店(作手総合支所)
概要	主要用途 小学校・地域交流施設・支所庁舎
構造	木造、一部鉄筋コンクリート造及び鉄骨造
階数	地上1階
敷地面積	16,106.53m ² (小・交)、7,532.98m ² (支所)
建築面積	3,336.80m ² (小学校)、1,310.10m ² (交流館) 911.47m ² (支所)
延床面積	3,197.53m ² (小学校)、1,168.93m ² (交流館) 790.79m ² (支所)



多機能型生活保護施設 愛恵園・愛恵園授産所

たきのうがたせいかつほごせつ あいけいえん・あいけいえんじゅさんじょ

岡崎市舞木町

建築主	社会福祉法人 愛恵協会
設計者	株式会社 小林清文建築設計室
施工者	株式会社 波多野組
概要	主要用途 生活保護法に基づく更生施設・授産施設
構造	鉄骨造
階数	地上3階
敷地面積	3,302.58m ²
建築面積	1,071.66m ²
延床面積	1,872.50m ²

「まちとともに生きる生活保護施設」をコンセプトとしてデザインされたこの建築群は、これまで「まち」とは隔絶される事の多かったこうした施設に、空間の力で一つの新しい答えを与えている。市道による敷地の分断を、逆に「まちとの融合」の機会と捉え、道を挟んで「向かい合う」中庭や、連続する軒下、フルオープンになるサッシ、杉板壁などを組み合わせ、多様な居場所をつくり、まちの風景をつくり出している。

入所者の生活を支え、社会復帰を促す施設として、職員による自然な見守りを容易にしつつ、入所者の安心感と地域への開放感を同時につくり出す空間操作が巧みであり、建築としては2棟でありながら、ボリュームを細かく分節した「建築群」としてのデザインも、施設が「まちと融合」する要因となっている。

本来地域とともにあり、支え合うための様々な福祉施設だが、昨今、近隣住民に反対されたり、建設されたとしても閉鎖空間化を余儀なくされる事も多い。今後も本施設のように、「地域のまちなみ」をつくり「まちとともに生きる」施設が建築される事を期待したい。

太幡 英亮 | Eisuke Tabata



2

3

1,2,3 photo/株式会社 小林清文建築設計室(2017)



1

名城公園内の大津通りに面した敷地に登場したこの複合施設は、公園利用者のためのカフェ、レストラン、コンビニエンスストア、スポーツ用品店、ランナー・サイクリスト・サポート施設を擁するだけでなく、マルシェをはじめとする様々なイベントが開催される広場、イベント時の観客席や日常の居場所になる幅の広い階段、名古屋城が望める日当たりの良い広々としたテラスを提供している。設計者は、これらの場所がトナリ合う関係をつくり、多様な使い方を可能とさせることにより、広大な公園の中に「みんなで育てる、みんなの居場所」をつくることに成功した。

それだけでなく、向かい側の愛知学院大学とともに大津通りの街並みと賑わいを積極的に形成していこうとする街に対する姿勢、景観を阻害する変電施設を中部電力との折衝と調整を通じて建築の内側に取り込んだ努力、既存樹木を保存・活用して木漏れ日空間を提供した配慮など、評価すべき点が多い。木材を使った仮設的な外壁、塗装されていない手すりなどは建築として未完成な印象を与えるが、これこそ「みんなで手をかけながら育てていく居場所」をつくらうとした設計者の意図した通りなのだろう。

村山 顕人 | Akito Murayama



2



3

1,2,3 photo/Koji Fujii [Nacasa and Partners Inc.] (2017)

tonarino

となりの

名古屋市北区名城一丁目

建築主	アイ・アンド・シー・コーポレーション株式会社
設計者	株式会社マウントフジ アーキテツスタジオ一級建築士事務所
施工者	木下建設株式会社 名古屋支店 (建築) 中部土木株式会社 (外構) 岩間造園 株式会社 (植栽)
概要	主要用途 テナントビル
	構造 鉄骨造
	階数 地上2階
	敷地面積 165,122.87m ²
	建築面積 1,374.16m ²
	延床面積 1,494.80m ²



1

名古屋大学NICを中心としたコレクティブ・フォーム(集合体)の形成

なごやだいがくえぬあいいい
ちゅうしんとしたこれくていぶ
ふぉーむ(しゅうごうたい)のけいせい

名古屋市千種区不老町

建築主	国立大学法人名古屋大学
設計者	(NICの設計者として)株式会社 日本設計 名古屋大学工学部施設整備推進室 名古屋大学施設管理部 名古屋大学施設・環境計画推進室
施工者	清水建設株式会社
概要	主要用途 大学
	構造 鉄骨鉄筋コンクリート造
	階数 地上8階
	敷地面積 381,096.65m ²
	建築面積 2,308.27m ²
	延床面積 15,623.20m ²

このコレクティブ・フォームは3つの建築群からなり、名古屋のファッション、文教施設、良好な居住環境が整う四谷・山手通りの幹線道路沿いに建っている。

通り沿いに対しては、日射を遮蔽する縦型ルーバーをNICと防災館の異なる建築物でも連続させ、省エネ等の環境提案に留まらず、デザインの統一性を計り景観を整えている。

夜間には、室内から漏れる光が縦ルーバーに反射し、柔らかな表情を街へと投げかけている。3つの建築物の軸線には通り抜け空間の交差があり、人と人との淀みや対流を起こすソフトな仕掛けが出来ており、道路から敷地内の広場まで人を誘い込むゾーニング計画も魅力的だ。

通常閉鎖的になりがちな学校施設が多い中で、この作品は社会に開かれた空間創出に長けているのと、複数の建築が異なった設計者と建設時期であり、長い時間の中で景観を育てていった事業主及び統括設計者の熱意にも拍手を送る作品である。

久保田 英之 | Hideyuki Kubota



2



3

1,2 photo/名古屋大学(2017) 3, photo/新名 清(2015)



この建築物の作者は「愛知産業大学 言語・情報共育センター」で2016年度JIA（日本建築家協会）新人賞を受賞している（同作品により2015年中部建築賞、2016年日本建築学会作品選集新人賞等受賞）。この作品は通路とも教室とも取れる不思議な建造物で、建物として認識させるのは格子状に交差して空中に浮いている白い平坦な屋根である。今回応募された「まちに架かる6枚屋根の家」は、今年度第29回すまいる愛知住宅賞を既に受賞しており、それぞれ部屋ごとに片流れ（薄いHPシュル）の屋根で覆われている。軒下空間が外界と住み手を繋げる重要な中間領域などという理由付けをしてはいるものの、6枚の屋根が重なり合いながら建物を覆っている様は当たり前前の納まりなのだが、この作者だからこそここまで軽やかに空中に浮かせることが出来たのだろう。

廣瀬 高保 | Takayasu Hirose



1,2,3 photo/栗原健太郎 (2016)

まちに架かる 6枚屋根の家

まちにかかる
ろくまいやねのいえ

名古屋市名東区大針三丁目

建築主	K氏
設計者	栗原健太郎+岩月美穂 studio velocity一級建築士事務所
施工者	誠和建設株式会社
概要	主要用途 事務所併用住宅
	構造 在来木造
	階数 地上1階
	敷地面積 333.01m ²
	建築面積 121.43m ²
	延床面積 106.75m ²



名城大学 ナゴヤドーム前 キャンパス

めいじょうだいがく
なごやどーむまえ
きゃんぱす

名古屋市東区矢田南四丁目

建築主	学校法人名城大学
設計者	株式会社 日本設計（設計監修：名城大学経営本部施設部）
施工者	株式会社大林組
概要	主要用途 大学
	構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 （一部鉄骨造、鉄筋コンクリート造）
	階数 地下1階、地上7階、塔屋1階
	敷地面積 17,937.07m ²
	建築面積 9,094.50m ²
	延床面積 33,099.58m ²

このキャンパスは、名古屋市東区の準工業地域にあり、北は住宅・文教エリア、西は大規模工場エリア、南は大規模商業エリアに囲まれている。多様な機能を持つ場所と隣接する、車通り人通りの多い環境である。

キャンパス内は、建物4棟を囲い込み型に配置し、周囲の環境に左右されない中庭を確保し、この4棟を繋ぐように、中庭の周縁に大学独自のアイデンティティである「丘」を設けた。また外部に対しては、敷地周辺から北側と西側をセットバックさせることによって圧迫感を押さえ、特に西側は隣接する矢田第二公園を取り込む形で、ゆったりと緑豊かな遊歩道とした。通りと一体となった大きなアプローチ空間は、なだらかに中庭と丘に繋がり、人の動線を自然にキャンパス内に誘引している。丘を歩くと、各棟からはガラス越しに学生たちの活動が垣間見え、大学の活気に触れることができる。潤いのある魅力的な中庭の環境は守られつつ、各棟間の抜けによって、閉塞感を感じさせない。

大胆な設計によって、地域と大学それぞれを尊重しながら、互いに積極的な交流が図れる場が提供されている。ここで生まれる様々なコミュニケーションから、新たな活動が生まれ、魅力が発信されていくことになるだろう。

森 真弓 | Mayumi Mori



1,2,3 photo/日暮雄一 [日暮写真事務所] (2017)